

「学校主体による救命教育の実施」を支援するため、BLS 授業用資器材や教材の無料貸出しをします



※詳細および申し込み方法は、命のバトンのホームページをご覧ください。 ※運搬が伴う場合やスタッフ派遣は有料です。

ふくい市議会令和5年9月定例会の一般質問で堀川議員がBLS教育に関する質問をされました

小・中学生に対するBLS事業の重要性とその運営について

質 問 一次救命処置等を指導するBLS授業に実績のあるNPO法人命のバトンは、人手不足等により活動継続に不安があるという。消防局も中学生を対象に同授業を行っているが、非番の職員が時間外勤務で対応している。一般に公募するかたちで民間に委託すべきでは。 回 答 児童・生徒が、技術を持った方から実技指導を受けることは高い学習効果が期待できると考えている。中学校においては、消防局の普通救命講習会を活用している。また、小学校においては、命のバトンの多大な功績のおかげで指導を継続できている。こういった取組は重要で効果があると認識しているが、事業を委託するかどうかについては、委託内容等を検討する必要があるため、教育部局と相談しながら検討していく。

※福井市議会だよりNo.231(2023年11月10日発行)の一般質問要旨を引用

会員募集のお知らせ

一緒に活動して下さる方、この活動を応援して下さる方を募集いたします。下記Eメール又は、ホームページをご覧ください。

E-mail: info@heartlife-fukui.com

※会員になると、講習会無料・AED貸出優遇などの特典があります。

AED無料貸し出し

講習を受けた方を対象に、イベント時のAEDの無料貸し出しを実施しています。

出張講習会

さまざまなグループの出張講習も承ります。少人数も可能です。

定期講習会

毎月1回定期講習会を実施します。場 所：福井駅東 AOSSA 7階 受講料：1,000円/名

※詳細はホームページをご覧ください。 ※開催日時については、ご相談に応じますので、お気軽にお申し込みください。

命のバトンの活動に賛同いただいている企業様

株式会社大正堂/石山総合解体株式会社/クリエイティブ/キャノンシステムアンドサポート株式会社/株式会社きんでん/南坂井清掃/南TK保険/株式会社長野ポンプ/久光製薬株式会社/株式会社ヒロセ・プランニング/株式会社フィリップス・ジャパン/福井フェニックスライオンズクラブ/フクダ電子北陸販売株式会社/株式会社ホーコース/株式会社ミタス/株式会社宮永不動産 (五十音順 敬称略)

命のバトンスタッフのひとこと

知らなかったことから体験を通じてわかったこと。「AEDのやり方がわかって良かったです」、「自分もあわてず(救命の現場に)参加しようと思いました」こんな感想を子どもたちからよくお聞きします。バトンの授業はキッカケ作り、社会人になるまでしっかり救命教育を受けて下さい。(M.N)

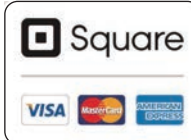
昨年、AEDフォーラム2023に参加しました。日本はAEDの使用率や救命率は低く、それを引き上げていくために学校教育での救命授業が大切というお話がありました。命をつなげていくための手当は、ごく自然で当たり前のことなのに、それが専門的なものという無意識の感覚になっていることが問題だと思いました。(M.K)

今年の5月末に群馬県で開催された全国PUSHネットワーク・日本AED財団地域コア団体連携会議に参加しました。主に大学医学部や救急救命士関係者で構成されているPUSHプロジェクトが各地で取組まれており、当法人としてもPUSHコースで使用している「あっぱくんライト」や「救命トレーニングアプリLiv」の活用も検討してみる価値はあると思いました。(T.N)

年会費・寄付のお支払いに、クレジットカードがご利用いただけます！

年会費のお支払いは、郵便局でのお振り込みの他、クレジットカード決済もご利用いただけるようになりました。

『命のバトン』(heartlife-fukui.com) webサイトより、『年会費・寄付金のお支払い』をクリックし必要事項をご入力の上、お支払いください。



発行責任者



特定非営利活動法人 命のバトン

住 所：〒918-8108福井市春日3丁目208番地17

代 表 者：安土 美紀

E-mail: info@heartlife-fukui.com

http:// www.heartlife-fukui.com/

発行日：令和6年11月

はあとらいふ

会報 Heart Life

11号

vol.11 2024年11月



小学校でのBLS授業

ごあいさつ

日頃より、NPO法人命のバトンの活動に対し、深いご理解と多大なるご支援を賜りまして心より御礼申し上げます。2004年7月、それまで医療従事者にしか使用が認められていなかったAED(自動体外式除細動器)の使用が、一般の人にも認められるようになって、ちょうど20年を迎えました。

2009年5月、「AEDが設置されていても使える人がいなければただの箱!」と、使える人を増やすための普及活動を目的にNPO法人命のバトンを設立して15年になります。

当法人では、15年間活動した課題を踏まえ、今年度から「学校での心臓突然死ゼロを目指し、教職員が自ら指導する学校主体の救命教育の実現」に向けた支援として、学校に対して心肺蘇生法訓練用資器材の無償貸出を行っております。より多くの児童・生徒らに救命教育を体験して欲しいという願いと、AEDがあって当たり前から、誰もが当たり前使用前のものになって欲しい、誰もが救命に携わることが当たり前の社会になって欲しいという願いからです。

併せて、当たり前の社会になることによって、心肺蘇生法の普及啓発活動をさせていただいている当法人の役割も早い時期に終わられることを切に望んでおります。

命のバトンは、2002年9月の原点の想いを原動力として活動して参ります、今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 安土 美紀

# かんとうげん 巻頭言

## 市民に対する心肺蘇生法普及の問題点

大阪ライフサポート協会  
京都橋大学健康科学研究科

西本 泰久



心肺蘇生法(CPR)は救命の連鎖の2番目と3番目の輪にあたります。令和4年の心原性心停止に対するバイスタンダーによるCPRの実施率は59.2%であり、その1ヶ月生存率は12.8%。1ヶ月後の社会復帰は8.8%と決して十分なものとはいえません。また、AEDによる除細動実施は全国で1229名、その一ヶ月生存率は50.3%、一ヶ月後の社会復帰率は42.6%でした。この原因としては、一般市民が、「心肺蘇生は難しい。」「間違っただけで悪くしてはいけない。」「心肺蘇生は救急隊員や医師が行うものだ。」「頭を打っているかも知れないのでさわってはいけない。」「AEDを間違っただけで大変なことになる。」など多くの思い込みや迷信があると思われる。このことが、CPRの開始の妨げとなっていると考えられます。市民が行うCPRは、「人として誰もが行うべきものである。」という認識を普及することが必要であると考えます。

いかにして、心肺蘇生の開始スイッチを入れるかを考えた指導の例として、NPO大阪ライフサポート協会(以下OLSA)では心肺蘇生講習会の導入講義では、バイスタンダーCPRの必要性を強調するようにしています。そのためには「突然目の前で人が倒れました。」ではなく、身近な人が倒れた想定にすること、また、脳が不可逆的な障害を起こすのは心停止後4分であることなど、イメージビデオやスライドを使用して導入しています。このように意識付けが重要であると考えます。これらの導入により、市民の方々には講習に真剣に望んでもらえるようになります。また、倒れた人を見たら「声をかける勇気を持ちましょう!」と指導しています。

現在、市民が行う心肺蘇生などの応急手当は、民法第698条の「緊急事務管理」あるいは刑法第37条の「緊急避難」として法的には、善意に基づいて救命処置を実施した場合には責任を問われることはないといわれていますが、海外の「善きサマリア人法」に比べると不十分であると考えられます。このことが、市民が行う心肺蘇生の妨げとなっていることも考えられます。「善きサマリア人法」の制定も重要と思われる。

実際に、一般の市民がBLSを行う機会は、一生に1度か2度かもしれない、その時に「勇気」を持って心肺蘇生を行うためには、手技が簡単で覚えやすいことと、長期記憶を考えた指導が必要であると考えます。そのため、2008年以降普及してきた「胸骨圧迫のみの心肺蘇生」が非常に有用です。従来、「難しい。」「困難である。」と考える大きな原因は、「気道確保を行った上での口対口人工呼吸」でありましたが、人工呼吸の部分を省略することで、かなり多くを解決出来たと思われま

す。中学校の指導要領に心肺蘇生法の実習が入り、授業時間を考慮した短時間の講習が増加することが考えられます。短時間であっても、マネキン人形などに触れている時間を十分確保することは、精神運動領域(技能)の習得には優れています。その際、1~2名に1体の小型マネキン等の使用は短時間の講習には必要です。また、講習を繰り返して行うことは、長期記憶にもつながると考えます。

JRC蘇生ガイドライン2020ではスペースドラーニングが有効であるとも記されています。救急蘇生法の指針2020市民用・解説編には、BLSの技能と意欲は、訓練後3~12か月で衰えはじめるとの記載もあります。BLS講習受講者に対する技術評価や再講習は、12~24ヵ月よりも短い間隔で行うことが推奨されています。

バイスタンダーCPRの実施率を向上させることが、病院外心停止からの生存率を高めることにつながります。

### プロフィール

NPO大阪ライフサポート協会は大阪医師会の3次救急委員会の下部組織のACLS(現ALA)大阪は医師向けの2次救命(ICLS)の指導を行ってまいりましたが、病院外心停止の救命率の向上にはつながらなかった。そのため、ACLS大阪の有志が集まって、市民に対して心肺蘇生の普及の為に組織としてNPO大阪ライフサポート協会を立ち上げました。その最初の17年間を理事長として活動していました。現在は、副理事長として岸本正文理事長をサポートしています。

- 昭和56 大阪医科大学卒業
- 昭和56 大阪医科大学胸部外科入局
- 平成 6 医学博士
- 平成 7 ミロスキーフェローシップで米国カリフォルニア州ロサンゼルス市グッドサマリタン病院に留学
- 平成 7 大阪府三島救命救急センター医長
- 平成14 大阪医科大学 救急医療部講師
- 平成18 大阪医科大学 生体管理再建医学講座 救急医学教室准教授
- 平成27 京都橋大学 健康科学部 教授
- 令和 6 京都橋大学 健康科学部 客員教授(大阪医科大学=現:大阪医科薬科大学医学部)
- 平成22~平成26 社団法人 大阪府医師会理事
- 平成27~令和 4 大阪府三島救命救急センター顧問
- 平成19~令和 5 高槻島本夜間休日応急診療所 管理医師
- 令和 3~令和 5 高槻島本夜間休日応急診療所 所長
- 平成17~令和 4 NPO大阪ライフサポート協会 理事長

## 救命コーチングアプリ Liv (リブ) for All

~ DX 教材で全ての人が AED を使える世の中に ~

公益財団法人日本AED財団  
減らせ突然死プロジェクト実行委員

千田 いずみ



2024年1月19日(“119”番にかけました)、『救命コーチングアプリLiv for All』(以下、Livと言う。)が日本AED財団よりリリースされました。Livは、ノルウェー語で「生きる・命」を意味しますが、救命処置をオンラインで、好きな時に、好きな場所で、たった15分で学習できる革新的な自己訓練ツールです。何が革新的かというと、これまで救命講習を受けるために時間や場所に制約を受けてきましたが、Livを使うことで誰もが、いつでも、どこにいても学ぶことができます。Livは119番通報や通信指令員とのやりとりが体験できる他、スマートフォンやタブレットのカメラ機能を用いることで、胸骨圧迫のテンポがモーションキャプチャーで評価され、リアルタイムにフィードバックを得ることができます。体験型の楽しいアプリになっていますので、ぜひ一度お試しください!

## AEDが使えるようになって20周年

2004年7月、それまで医療従事者にしか許されていなかったAEDの使用が、一般の人にも認められるようになり、今年でちょうど20周年になります。

現在に至るまで、街中ではAEDの設置台数が急速に増えました。AEDはただ設置するだけでは「ただの箱」にすぎません。消防署や日本赤十字社などが開催する救命講習会や、学校での救命授業などを通じて、AEDを使える人や、救命に協力してくれる人を増やす努力も続けられてきました。その結果、AEDによる救命件数は年々増加し、AED解禁から20年間の累計では、少なくとも8,000人ももの尊い命が、その場に居合わせた市民によって救われました。しかしその一方で、AEDによる電気ショックが行われたのは、目撃された心停止のたった4.3%に過ぎないという現実があります。

救命処置への参加には、知識・技術の普及が不可欠です。Livの普及によって、AEDが私たちにとって「いざというとき、当たり前前に使用するもの」となる世の中を目指します。

無料 × たった15分

### 救命コーチングアプリ Liv for ALL

Livを使えば救命処置のトレーニングを  
オンラインアプリで楽しく実践的に学べます

- 1) 総務省消防庁: 令和5年版 救急救助の現況: 救急編
- 2) 心原性心停止を目撃された28,834例(総務省消防庁2022年全国集計)

無料オンライントレーニング  
はこちらから



# ♡ BLS授業をおこないました！

## 令和5年度実施校

実施日	授業時間	学校名	学年	受講者数
6月 8日	14:20～15:05	酒生小学校	5・6年生	49名
6月15日	14:35～15:20	宝永小学校	5年生	38名
7月23日	9:00～10:00	社北小学校PTA	親子	20名
10月 3日	13:50～15:20	松本小学校	6年生	73名
10月19日	14:45～15:30	日新小学校	5年生	29名
10月20日	14:20～15:05	麻生津小学校	5年生	61名
10月24日	13:40～14:25	安居小学校	5・6年生	48名
11月29日	11:15～12:15	加斗小学校	5・6年生	20名
12月18日	13:10～14:00	春山小学校	5年生	39名
1月26日	13:30～14:15	美山啓明小学校	5・6年生	17名

## 令和6年度実施校(7月末時点)

実施日	授業時間	学校名	学年	受講者数
5月30日	13:40～14:25	宝永小学校	5年生	24名
6月 3日	13:30～14:20	中藤小学校	6年生	133名
6月 5日	14:20～15:05	酒生小学校	5・6年生	42名
7月 3日	13:30～14:30	松本小学校	6年生	75名
7月13日	9:45～10:45	若狭町三宅小学校	5・6年生	28名

NPO法人命のバトンは、小学校でのBLS(一次救命法)授業を実施しています。授業時間は各校のニーズに柔軟に対応できる様、45分(1時限)から、90分(2時限)までのプログラムを準備しております。



## 振り返りの時間で行われている児童らの感想をご紹介します。

### 小学5・6年生のみなさんからの感想

AEDをセットしたとき難しいと思ったけど、知らない人もすぐに出来るようになっていてすごいと思いました。心臓マッサージ(胸骨圧迫)をするのが10分～15分くらい長い時間するのでびっくりしました。本当にあった人の声とかが残っていて、それを聞いたらAEDを使うとき、こんな感じになるんだなとわかりました。

命は亡くなったら戻らないからとても大切なものと改めて思いました。また、人を助けることで多くの人が亡くなるのを防ぐことにつながり、その人の家族も辛い思いをしなくて大切だと思います。もし、倒れている人を見つけたら胸骨圧迫をするのは難しいと思うので、大人を呼んできたり、その人のために出来ることをがんばってみたいです。

私はBLS授業を受けて難しかったところが二つあります。一つ目は、胸骨圧迫する時の手の位置や体の体制が難しかったです。二つ目は、パッドの貼り方です。パッドの粘着がある方に砂やいろいろ付いてはいけない様にするのが難しいし、パッドの貼る位置です。1回貼ってしまったら、もう外せないで慎重に貼らないといけないと思いました。私の目の前で人が倒れてしまったら、勇気を出して助けようと思いました。もし人を助けなかったらその両親がかわいそうだし、その人もかわいそうだからです。



胸骨圧迫のやり方やAEDの使い方を知れてうれしかったです。今日知ったことで特にならしたいことは、119番に通報して救急車が来るまでは胸骨圧迫をがんばりたいと思いました。どこにAEDがあるかを確認しておきたいと思いました。もし家族の誰かが倒れたら、一生懸命胸骨圧迫をしたいと思ったし、何かがあったら役に立ちたいと思いました。

胸骨圧迫とAEDの練習をしたけど、倒れた人を救うために、AEDのパッドの貼る位置も正しく貼らないと心臓に電気がとどかないし、胸骨圧迫は休んではいけないと思った。

救急車が来るのに9分と聞いて、初めは来るのが早いなと思ったが、胸骨圧迫やAEDいろいろしても9分経たず、救急車が来るのが遅く感じた。

もし今後、目の前で人が倒れたらあせらずに今日やったことを思い出そうと思いました。自分の行動がその人の命に関わるので練習も緊張するなと思いました。救急車が来るまでに普通に10分と聞いたら短いだろうけど実際は長いだろうなと思いました。



私はAEDをどうやって使うかが分かったから、もし誰かが倒れてしまってピンチになった時、自分も出来ると思いました。胸骨圧迫をして2分とかでもキツイのに、救急車が来るのは約10分くらいで大変だと思いました。本当になった時はあせらずにやろうと思いました。

初めてAED(訓練用)を使ったけれど、パッドの貼る場所や音声に従って使うなどのことが知れてよかったです。本当に人が倒れたときでも、一人でも命が助かるように対応したいです。



私はBLS授業で命や人を助けるということはとても大切なことだと思いました。私はまだ子どもだからAEDを使うことは少し難しいかもしれないけれど、もし人が倒れていたりしたのを見かけたら近くの大人の人を呼んだり、やり方を教えたり、BLS授業で学んだことをこれからに生かしていけるようにしたいです。

今日の講習会で自分が何をすればいいのかわかった、自分に何が出来るのかわかった。

## 「防災一人語り」推進グループによる福井公演が開催されました

開催日:2024年5月25日(土)

会場:福井市防災センター 2階 多目的ホール

共催:福井市防火委員会、福井市防災センター、「防災一人語り」推進グループ(協力:NPO法人命のバトン)

心肺蘇生の大切さを学ぶ防火・防災研修会が開催され、命のバトンの活動を基にした朗読劇を披露しました。

朗読劇は、体育祭中に倒れて亡くなった16歳の娘の母が、AED普及に踏み出す物語。「防災一人語り」推進グループメンバーで歌手の岩田瞳さんの感情を込めた語りと、クラリネット奏者の中島健太さんの美しい演奏で、悲しみを乗り越える母の思いを聴衆者に届けました。

防災一人語りの作品に出演する音楽家4人による「Kato's Ensemble」のコンサートや、命のバトン理事川崎真弓氏による講話も併せて行いました。



## PUSHプロジェクトとは？

突然死は、いつでも、どこでも、誰にでも起こりえます。突然、心臓が止まってしまった場合、助かる可能性は数%と非常に低く(ウツタイン大阪プロジェクト調べ)、日本では毎年およそ7万人の方が心臓突然死で亡くなっています。突然、心臓が止まった場合、一刻も早く胸骨圧迫(心臓マッサージ)を開始し、AED(自動体外式除細動器)を用いて、電気ショックをかける必要があります。AEDの設置は拡がりつつありますが、AEDを用いた心肺蘇生を行うことのできる人が増えなければ、救命率の向上は期待できません。

PUSHプロジェクトは、胸骨圧迫とAEDの使い方の普及を通じて、突然倒れた方を救命できる地域づくりを目指します。

### 大阪ライフサポート協会

#### ◆全国展開

- 1 PUSH 地域コア団体の拡大
- 2 PUSH 指導者養成講習会の定期開催
- 3 全国ネットワークの展開と連携



#### ◆指導者養成・リニューアル・認定インスト管理・システム管理

- 1 PUSHコース/PUSH指導者養成講習会の開催
- 2 PUSH認定インストラクターの質の統一
- 3 リニューアルコースの実施
- 4 開き方講座や指導者養成講習会の部分的なオンラインでの実施

#### ◆広報活動

Facebookに加えて日本AED財団と連携し救命サポーターアプリ等を活用した広報を計画する。



チラシの作成

#### ◆学校PUSH

- 1 PUSH通信の発行
- 2 学校PUSHモデル校の募集を見直し、新たな方法で学校へPUSHを広める取り組みを検討
- 3 学校薬剤師へのPUSHの啓発
- 4 教育委員会や、養護教諭の会合へのアプローチ

HP⇒<https://osakalifesupport.or.jp>

#### ◆福井でもPUSHが産声を...!



大阪ライフサポート協会のPUSH指導者講習会を受講した大森さん(福井県小浜市在住 認定看護師/当法人会員)指導による、学校PUSH講習会を開催しました。

令和6年7月3日(水) 小浜美郷小学校にて

### 東京PUSHネットワーク

- 心臓突然死から一人でも多くの方を救命するため、有志により結成されています。
- 主なメンバーは、医師・看護師や各種療法士などのメディカルをはじめ、会社員や主婦など幅広い方々の集まりです。



#### ◆活動紹介



#### ◆2024年度の活動予定

- ➔ 指導者養成講習会開催(3回)
- ➔ 指導者養成講習会支援(山梨・神奈川)
- ➔ 学校及び企業などでのPUSHコース

### 愛知PUSH

#### ◆活動実績

救命サポーター数	
2024年2月末	3,203名

PUSH講習回数	
2021年度	34回
2022年度	126回
2023年度	172回

PUSHインストラクター 2024年5月現在	
認定インストラクター	21名
プレインストラクター	41名
計	62名

指導者講習 実施日	普及啓発イベント参加
2023年 7月15日	2023年度 31回
2023年11月23日	
2024年3月2日	



医師・歯科医師 2名  
看護師 5名  
診療放射線技師 1名  
大学教員 2名  
養護教諭 1名  
救命士 1名  
医学生 3名  
その他 5名



### NPO法人ちば救命・AED普及研究会



設立日：2021年3月  
目的：広く一般市民に救命教育(心肺蘇生法・AED講習会等)の普及推進およびその周辺知識等の啓蒙を行うことで、心肺蘇生技能の向上と共助の心を醸成し、お互い声をかけ助け合える地域社会の涵養と、市民の救命率および社会復帰率の向上に寄与すること。

HP⇒<https://www.chibapush.org>

#### ◆Vision 千葉だけでなく、全国で活動

倒れるなら、千葉  
命が助かるまち。命を助けるまち。

Target	Contents
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓一般市民全体</li> <li>✓教職員</li> <li>✓スポーツに関わる人々</li> <li>✓学童、学生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓救命、AED講習会(対面、オンライン)</li> <li>✓救命講習会指導者養成</li> <li>✓AED利活用促進</li> <li>✓救命に関する調査研究</li> </ul>

すでに複数存在する救命講習会に携わる団体様と協力をしつつ、より救命の裾野を広く、AEDが使えるまちづくりを目指す

### 沖縄PUSHネットワーク

#### ◆活動実績

PUSHコース (2014年5月1日～2024年5月20日)	
コース回数	受講者合計
451回 (のべ回数)	19,383名 (のべ人数)
開き方講座開催回数	15回
指導者養成講習開催回数	8回
リニューアルコース開催回数	5回
NAHAマラソン参加者対象PUSHコース	
救急災害フォーラムPUSHコース	
学校環境衛生・安全管理講習会PUSHコース	
リレーフォーライフPUSHコース	
ミュージックタウン音市場PUSHコース	

#### ◆その他の講習 (2014年5月1日～2024年5月20日)

ASUKAコース	15回
エビベン講習	29回
ブコラム講習	1回

### 群馬PUSH

#### ◆活動実績

前橋パートナーシップ		伊勢崎市内PUSHコース		その他	
2021年度	1回	2021年度	8回	2021年度	4回
2022年度	19回	2022年度	2回	2022年度	4回
2023年度	15回	2023年度	24回	2023年度	14回



#### ◆主な活動

活動1 パートナーシップ事業	活動2 伊勢崎市教育委員会との協働活動
活動3 AED設置のための普及活動	活動4 インストラクターの育成

### 新潟PUSH



#### ◆活動実績

新潟県内のPUSHコース開催回数	
2021年度	223回
2022年度	345回
2023年度	481回

新潟PUSHコース指導者養成講習会 開催実績	
2023年7月22日～23日	30名
2024年3月16日～17日	18名

#### ◆J1 ALBIREX NIIGATAとコラボ



※ 上記資料は、2024年5月25～26日に開催された「全国PUSHネットワーク・日本AED財団地域コア団体連携会議」の発表資料を引用しています。